

学生ならびに会員向けランチョンセミナー 「水環境分野で働く女性たち」報告

男女共同参画推進委員会 麻布大学 大河内 由美子

昨年に引き続き、第52回年会においても、初日の3月15日(木)12時20分からG会場にて、学生ならびに会員向けランチョンセミナー「水環境分野で働く女性たち」を開催した。本セミナーは第48回年会から数えて通算5回目の実施となる。今年は北海道支部の協賛を得て、水環境に関連した業界や業種でキャリアを積んだ女性技術者・研究者5名を話題提供者として迎え、会員との交流・キャリアにまつわる情報交換を行った。話題提供者の内訳は、民間企業2名、地方環境研究所1名、大学教員2名であった。一方、参加者は総計35名で、内訳を見ると21名が学生会員(学部生4、修士課程院生15、博士課程院生2)であり、残る4割が社会人であった。後述するように、一定数の社会人の方々にも興味を持って参加いただけている近年の傾向は、参加者に対する情報提供の幅を広げるという効果をもたらしていると実感している。なお、参加者35名中2名が男性であり、いずれも女子学生を多数抱える大学教員であった。他のランチョンセミナーとは明らかに異なり、女性が多数集う本会場に足を踏み入れることに怯まれたのではと想像するが、最後まで積極的に意見交換いただいた点を特筆しておく。以上のメンバーに新聞記者2名を加え、セミナーが始まった。

初めに、男女共同参画推進委員会・大河内からセミナー開催挨拶と趣旨説明を行い、話題提供者から自己紹介ならびに水環境分野で仕事を始めたきっかけ・動機や業務上の体験談、ご自身のプライベートや家庭生活についてお話しいただいた。参加者は5グループに分かれて着席し、小ぶりの和風弁当を食べながら傾聴していた(写真1)。

その後、話題提供者が各グループのテーブルに着席し、引き続きテーブルごとに自由に情報交換を行った。新聞記者2名も時にテーブルに加わり、会場は話し声と熱気に満ちていた。今回は過去の実施セミナーに比べて話題提供者が5名と少なかったため、話題提供者を囲む参加者数が多くなり、十分な懇談ができるだろうかと懸念していたが、参加者の4割を占める社会人の皆様からも積極的にご発言いただくことで、結果的にバラエティに富んだ情報交換が行われていたと考える。ただし、テーブルを囲むメンバーにより、どうしても話題が偏りがちであった点は今後の課題として検討していきたい。仕

事が忙しく、家族とのすれ違いが生じがちな家庭生活と仕事をどのように両立していくか、といった話題で盛り上がりつつあったグループもあれば、教員・学生が所属するさまざまな大学で繰り返される研究室生活に関する話題で盛り上がりつつあったテーブル、女性が仕事をしついでに遭遇する可能性のあるトラブルについて話し合っていたテーブルもあった。

今回のセミナーでも終了時にアンケートを実施した。話題提供セッション、自由懇談セッションともに、高い満足度を示す回答がほとんどであった。「研究職のリアルな生活が聴けた」「いろいろなライフプラン、キャリアパスがあることがわかった」「普段聞くことのできない話が聞けた」とのコメントも寄せられており、就職活動を意識せず自由に懇談ができる場として高く評価されたと考えている。同時に、会員がセミナー等で今後どのようなトピックを取り上げて欲しいと考えているかについての希望も尋ねた。集計結果を図1に示す。今年の特徴として、参加者、話題提供者ともに希望の多かった項目に、「ワークライフバランスの取り方」がランクインした点が挙げられる。ニュース報道で過労死について耳にすることが多かった近頃の時勢を反映しているのだろうか？また、参加者からは「女性技術者・研究者のキャリアパス/ロールモデルの紹介」に加えて、「水環境分野の仕事内容・特色」を希望する声が多く寄せられた。一方、数は少ないものの「男性視点からの男女共同参画」を取り上げて欲しいという意見や、男性大学教員からはその他の意見として「女子学生が抱くキャリア構築への不安」について取り上げて欲しいという意見も寄せられた。いただいたこれらの貴重な意見を踏まえながら、既成概念の枠に囚われることなく、今後は幅広い会員層からのニーズにマッチした情報提供のあり方を模索していく所存である。

最後になりますが、年度末の業務ご多忙な中にも関わらず積極的にご協力いただいた話題提供者の皆様、当日のセミナー運営にお力添えいただいた日本水環境学会の原田房枝理事(ライオン株式会社)、そして発表・セッションで忙しい合間を縫ってご参加いただいた会員の皆様に、厚く御礼申し上げます。



写真1 セミナー会場の様子

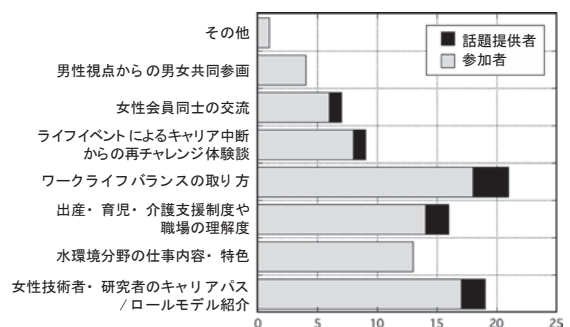


図1 今後取り上げて欲しいトピック (アンケート結果)